

今、この時を楽しく生ききろう

上うえ廣ひろ榮えい治じ

「今、この時を生ききる」とは、会創設以来、提唱されてきた実践の基本姿勢です。

では、なぜ「今、この時」でなければならぬのでしょうか。「それなら、いつであれば、思い通りの実践ができるのか」と逆に自問してみれば、その答は明らかです。

昨日は過ぎ去って、二度と戻ってくることはありません。明日はその時がくるまでは、不確かな未来ではありません。どちらも、私たちの意思で自由に変えることはできません。私たちが思いのままに生命を燃やせるのは、「今、この時」をおいてほかにないのです。

「今、この時を生ききる」ということ、それは今も昔も私の実践の要諦まうていであることに変わりはありません。しかし、歳を重ね古稀こきに近づいた頃から、私にとっての「今、この時を生ききる」に、微妙な変化が生じてきたように思われるのです。

どのような変化かと申しますと、「今、この時を生ききる」という覚悟が、「今、この時を楽しく生ききろう」という思いが変わってきたということです。今を楽ししいものにしよう、このひと時を楽しもうという思いが強くなってきたのです。

なぜ、そうなってきたかについても、私なりに説明できるように思われます。

まず第一に、「上機嫌の実践」を提唱するようになったことです。皆さんに提唱した以上、自分も、いついかなる時でも、上機嫌を失うわけにはまいりません。上機嫌を保つことで、自分と周囲の人々の不安や危懼を払拭しよう、明るい希望を鼓舞しよう、自分なりに努めてきたつもりです。

そして、いつしか気づいたのです。「上機嫌の実践」は、そのまま「今、この時を楽しく生ききる」実践でもあることに、です。

第二は、歳をとるとともに、苛立つたり、腹が立つたりすることが、ひどく少なくなってきたことです。好き嫌いのうち、「嫌い」が目立って少なくなったのです。批判や悪口に対しても、「ずいぶん変わった意見だなあ」「面白い発想だなあ」「人それぞれで面白い」と思うだけになったのです。

私の立場上、苦言を呈さざるを得ないこともあります。本気で立腹することはなくなりました。どなたにも、それぞれの立場があり、それぞれの事情やお考えがあることは十分承知したうえで、私なりの助言であつたつもりです。

歳とともに、そうなつたと申しましたが、歳のせいだけではいかもれません。実践の積み重ねの成果ということもあるでしょう。

孔子を引き合いに出すのは恐縮ですが、孔子も「六十にして耳順う」境地に達したと言っています。

この「耳順う」の意味を、世界的な中国文学者の吉川幸次郎さんは、「自己と異なる説を聞いても、反発を感じなくなつた。つまりそれらの説にも、それぞれ存在理由があることを感得するようになった。さらに言い換えれば、人間の多様性を認識し、むやみに反発しないだけの、心の余裕を得た」ということだと解釈しています。

私の場合も遅まきながら、「心の余裕」ができてつあるのかもしれませんが。

私たちが苛立つたり、腹を立てたりするのは、ほとんどの場合、「かたくなな心」によるものです。「あの人は嫌い」「実践はこうあるべきだ」「くすべきだ」「くするのが筋だ」などと、個人的な意見に固執して、自分を異なるものを受け入れない「かたくなな心」、それが苛立ちや立腹を生むのです。

困ったことに、「かたくなな心」は他人の気持ちや考えを敏感に捉える能力を極端に低下させてしまいます。他人を理解できずに拒否してしまつたため、人との対立が絶えません。つまり、心の鎧を解かないかぎり、「今を、楽しく生ききる」ことなどできないのです。

今振り返ると、若き日の私は、実践倫理からして「かくあらねばならない」と、遮二無二、頑張っていたように思います。しかし今では、「こうしたい」「ああしよう」と思うことのほとんどが、そのまま実践倫理に適ったものであると感じています。身も心も、無理なく素直に大自然の摂理に委ねていると実感されるようになったのです。

そのため、「かくあらねばならない」と思うことも、めつきり少なくなりました。また、「かくあらねばならない」からといって、無理をしようとも思わなくなりました。自分にできないことを無理に行なおうとすることは、むしろ不自然なことだと思つようになりました。

そんな無理をするよりは、今の自分にできることを精一杯、楽しく行なう、そんな「今」を積んで、歳を重ねていけばいいのだと思っています。

今年の春の大会以来、「随所に主となれ」と申し上げてきました。その言葉を借りるならば、「不機嫌」や「かたくなな心」はもちろん、「ねばならない」も「主」にしないということです。「上機嫌」で、「今、この時を楽しく生ききろう」とする私を、自分の主人にしようと思つています。

「ねばならない」を主人にしてしまうと、どうなるでしょう。どんなに努力しても、今の自分には達成できない目標を、やらねばならないものとして設定すれば、「自分は駄目な至らぬ人間だ」という悲しい挫折感を重ねるだけです。今の自分に達成不可能な目標ほど無慈悲な主人はない、といえるかもしれません。

「今、この時を楽しく生ききる」ためには、ぜひ、そんな無慈悲な主人から解き放たれて、今の自分を「主」にしたいと思うのです。

しかしそれは、大きな高い目標を放棄することではありません。大きな高い目標、今の自分には、どんなに努力しても達成できないような目標とは、たとえば眼前にそそり立つ巖壁がんべきのようなものです。

その巖壁に正面から挑まなければならぬと強制されても、それは不可能というものです。しかし、目標がわかっているのですから、自分なりに頂上に至る、迂回うわいルートを探すことはできるはずですよ。

今の自分にたどることができる道を発見して、一步一步、「今、この時を楽しく生ききる」ように登っていく。一步を登り得た達成感と喜びをエネルギーにして、歩を進め、大きな目標に近づいていく。それはこの上もなく楽しいことだと、私は体験的に知っています。

さて、今のあなたにできる楽しいこととは何でしょうか。「我も人ものため」になり、あなたを高めることができる楽しいこととは何でしょう。登頂ルートは人それぞれに違ってても、「我も人も」に楽しいことの実践が、一步一步あなたを高め、大目標へと導いてくれるに違いありません。

やはり実践は楽しくなくてははいけません。

